

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 えんじょいんと			
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日 ~ 令和7年12月27日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日 ~ 令和7年12月27日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの活動スペースが十分広く確保されている。	全体的なスペースをできるだけ広くとる為に、パーテーション等の区切りは最低限に抑え、またクーラダウンのルームも作成して広々とした活動スペースを提供している 逆に広いがゆえに起こる事故や怪我の防止に角部分の保護や、丸テーブルの利用等で受傷事故を防止している。	運動面ではスペースが確保されているが、机上課題についてもスペースを確保し、運動と机上課題両方が安全に提供できるよう取り組んでいる。
2	家族支援として、Zoom等の情報機器を利用しての制度の説明や、放課後等デイサービス、小学校のなかよし学級の説明等、家族の障害理解の支援を実施している。	業務時間内は共働きのご家族様の時間が対応できないと思われるため、夜の20時周辺の時間を設定し、共働きであっても参加しやすいようにZoom等の情報機器を用いて家族支援を行っている。	SNS等で児童の個人情報の流出を注意しながら、各媒体にて公表しており、オープンな施設を目指している。 また、長期休養期間には定期的に見学会を実施している。
3	支援プログラムの中で、本人支援を中心にもってきており中学校・高校に向けた自立活動への支援プログラムを実施し、児童のQOLと生活能力の向上をプログラムの中に組み込んでいる。	理学療法士や、保育士、教員等の各それぞれ専門職員の専門分野を活用したプログラムを策定し、また個別プログラムを実施して、個別療育と集団療育を共に実施している。	各種職員のスキルアップとして外部研修会や地域の協議会にも参加して、施設療育のスキルアップを図っている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者同士の情報交換をできる場を提供する。	児童の療育に注力してしまった。またZoom等で情報交換ができる場を提供したが、デジタルデバイドの現状が起きてしまっていた。	まずは、施設内イベントに保護者が参加できるような形に発展させて、保護者同士の情報交換ができるようにしていきたい。
2	安全計画等についての保護者への周知が不足していた。	支援プログラムの中に、避難訓練や安全管理プログラムを何度も実施していたが、通常のプログラムとの差別化ができておらず、保護者への周知がいまひとつの状況となってしまった。	安全管理計画を周知し、施設として適切に対応している旨広報を行いたい。
3	地域支援や地域交流を行う。	新しい地域交流の形が生み出せなかった。	自治会や協議会にも下半期から参加し、適宜委員とも交流ができるきており、次年度に地域交流を進めていきたいと意見統一を行っている。